

科目名 Course Name	技術戦略経営 Strategic Management of Technology			ナンバリング No.	C3-005		
年次	2年	期別	前期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	長江 庸泰						
連絡方法	C-Learningにて対応、オフィスアワー:本館2F 研究室 月～木曜（授業・会議時間を除く）						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP2, DP3, DP5						
授業の概要と到達目標	<p>技術経営戦略とは、技術力の費用対効果を最大化し、事業を持続的に発展させるために、次世代の技術を創出し、戦略的イノベーションの推進を行い、研究・開発の効率化を図る企業マネジメントの体系である。本講義では「技術感覚」と「戦略思考」を身につけ、自分の頭で考え「問題発見・解決」に秀でた人材を育成する。</p> <p>①「競争・市場環境と技術経営戦略(競争優位の基本戦略、技術と競争優位、価値連鎖と技術戦略、コトラーの新製品開発)」を習得できるようにする。</p> <p>②「技術戦略と研究開発マネジメント(研究開発プロセス)」を習得できるようにする。</p> <p>③「研究開発マネジメント(研究開発予算管理)」を習得できるようにする。</p> <p>④「知的財産権マネジメントとアライアンスマネジメント(企業間ネットワーク、アライアンスマネジメント)」を習得できるようにする。</p> <p>⑤「生産マネジメント(コモディティ化への対応戦略)」を習得できるようにする。</p>						
授業の方法	本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、「技術感覚」と「戦略思考」を身につけ、自分の頭で考え「問題発見・解決」に精通した人材育成を目指すものである。						
学習成果	L01						
	L02						
	L03	<p>①「競争・市場環境と技術経営戦略(競争優位の基本戦略、技術と競争優位、価値連鎖と技術戦略、コトラーの新製品開発)」を習得できるようにする。</p> <p>②「技術戦略と研究開発マネジメント(研究開発プロセス)」を習得できるようにする。</p> <p>③「研究開発マネジメント(研究開発予算管理)」を習得できるようにする。</p> <p>④「知的財産権マネジメントとアライアンスマネジメント(企業間ネットワーク、アライアンスマネジメント)」を習得できるようにする。</p> <p>⑤「生産マネジメント(コモディティ化への対応戦略)」を習得できるようにする。</p>					
	L04						
課題に対するフィードバック	小テスト・期末試験等の解答を示し、結果は個別にフィードバックする。						
教科書/参考図書	長江庸泰作成の“デジタルテキスト[技術戦略経営 2025 年度版]”を活用する。						
履修上の留意点やルール等	事前・事後学習各回 180 分、本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する自主創造の教えを基に、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けること。						
担当教員の実務経験	●実務経験(職種:会社役員 職歴:45 年)、実務経験を技術経営戦略の実践面と学習・説明等で活用する。						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	以下の3点から評価する:①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S 評価の基準:上記参加態度を全て満たすもの。			10	

佐野日本大学短期大学 2025（令和7）年度シラバス

<b>レポート／作品</b>	S 評価の基準:①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計3回提出予定(締切は各月末)。			30	
<b>発表</b>	S 評価の基準:①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。			20	
<b>小テスト</b>	毎時間実施。満点の基準:全ての解答が正解。			20	
<b>試験</b>	16週目に実施。満点の基準:全ての解答が正解。			20	
<b>その他</b>					
<b>合 計</b>				100	

回数		授業計画
1	授業内容	授業ガイダンス:本授業の進め方と学び方/レポート課題説明と出題の解説、シラバスを読んでおき、各授業に関する質問事項等を考えておくこと。
	事前・事後学習	事前学習(上記質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを整理しながら、自分で調べ、学ぶ姿勢を身につけること)。
2	授業内容	競争・市場環境と技術経営戦略①(競争優位の基本戦略、技術と競争優位、価値連鎖と技術戦略)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
3	授業内容	競争・市場環境と技術経営戦略②(技術革新と市場ニーズ、コラーの新製品開発、製品開発プロセス)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
4	授業内容	技術戦略①(技術戦略策定プロセス、技術戦略策定プロセスの各機能)、(グループワークによるプレゼンとディスカッション①)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
5	授業内容	技術戦略②(技術戦略と参入障壁、技術ポートフォリオ、イノベーション)/レポート課題説明と出題。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
6	授業内容	研究開発マネジメント①(研究開発プロセス)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
7	授業内容	研究開発マネジメント②(研究開発予算管理)。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
8	授業内容	製品開発マネジメント①(製品開発プロセス、製品開発プロセスの効率化)、(グループワークによるプレゼンとディスカッション②)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
9	授業内容	製品開発マネジメント②(製品開発組織、プロジェクトマネジメント)/レポート課題説明と出題。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
10	授業内容	知的財産権マネジメント(知的財産管理の必要性、知的財産権の利用・評価、知的財産権戦略)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
11	授業内容	アライアンスマネジメント①(アライアンスの必要性、アライアンスの種類・形態)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
12	授業内容	アライアンスマネジメント②(企業間ネットワーク、アライアンスマネジメント)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
13	授業内容	生産マネジメント①(生産管理、工程管理、IE)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
14	授業内容	生産マネジメント②(品質管理、資材購買管理)、(グループワークによるプレゼンとディスカッション③)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
15	授業内容	生産マネジメント③(コモディティ化への対応戦略)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。